

Kビジョン放送番組審議会（2017 年 12 月 14 日）

放送番組審議会(第 20 期第 1 回会合)では、『タウンニュース』、『句会へようこそ』を合評しました。

<合評番組>

■タウンニュース（20 分）

2017 年 11 月 1 日(水)放送

月～金曜日 18 時を初回放送とするニュース番組。この日のニュース内容は、①児童養護施設へのぬいぐるみ贈呈式、②「JACKとこどもの木」番組紹介、③児童がKビジョンを見学、など計 6 本です。

「JACKとこどもの木」は 10 月からスタートした月替わりの 5 分間の番組です。光市内の小学校に参加を呼びかけ、児童が地域で活躍する人＝「まちの先生」を紹介します。番組の台本作成・撮影・出演はすべて児童が行い、Kビジョンは制作のサポートと編集を担当。番組制作を通して、学校や児童にKビジョンについて知ってもらえる機会にもなっています

■句会へようこそ（45 分）

2017 年 11 月 1 日(水)～30 日(木)放送

俳句愛好家が出演し、毎回、決まったテーマをに沿って、みなさんの投句作品と句に込めた想いを紹介する月替わりの番組。11 月放送分は番組前半に下松市の笠戸島家族旅行村で番組初の吟行を実施、後半は投句した作品について出演者が各自批評しました

<合評内容>

■タウンニュース

- ・取材を依頼した時にはすぐに対応してもらえる取材スタッフのフットワークの良さに感心している。取材された内容を見ると、スタッフと地域の人と一緒にあって番組を作ろうと取り組むKビジョンの姿勢が感じられる。取材の様子を見ていると、住民とスタッフとの距離感が近く、これは大手のテレビ局にないケーブルテレビ局の番組の魅力だと感じる。
- ・身近な情報を端的にわかりやすく紹介していると感じる。
- ・福祉施設の取材で、利用者が特定できないよう撮影が工夫されていたが、撮影内容について決めていることなどはあるのか。
- ・児童の会社見学の様子が紹介されていたが、番組で広く呼びかけるなどしてPRしてはどうか。
- ・番組冒頭の放送内容の紹介時に、それぞれの項目が何時ごろ始まるか字幕で紹介してもらえると、忙しい時などポイントを絞って番組を見たい時に重宝する。

【JACKとこどもの木】

- ・子ども自身が、番組内容を企画、撮影、出演することが説得力となって、子どもの素直な意見として心の中に入ってくるのが、この番組の良さだと感じる。見ていて子どもの視点の鋭さやユニークさに感心すると同時に、大人は襟を正さなければいけないと感じた。
- ・自分の知っている子どもが出演していたが、普段は物静かにしているが、番組中でよくしゃべっている姿に驚いた。
- ・児童の話し方が少し早く、聞き取りにくい部分があった。
- ・番組制作を通して、子どもたちが自分のふるさとについて認識を深める良い機会になっていると感じた。光市外の学校にも対象を広げてもらい、ふるさとのよさを自ら探していく番組にしてほしい。

等のご意見をいただきました。

■句会へようこそ

- ・ どういった世代や人を番組のターゲットにしているのかがよく分からなかった。視聴者層を広げる狙いがあるならば、子どもが俳句を作る番組にしてみてもどうか。
 - ・ 俳句作りを勉強するのにはよい番組だと思うが、対象を愛好家に絞りすぎている感がある。番組中に初心者向けの内容を入れたコーナーを設けてみてはどうか。
 - ・ 出演者が使うマイクが大きく映り、重たそうにマイクを持って喋っているように見える。バックで流れる和風の音楽で、琴演奏の高音が目立ってしまい、喋りの部分が聞き取りにくいと感じる。
 - ・ 下松市外の人には、笠戸島の詳しい位置関係が分からないので、地図を入れたり、施設について簡単な説明が入ると見ていてわかりやすい
 - ・ 俳句の題材はあるが、映像からイメージするものがないので、マニアックに感じる面もある。俳句に興味のない人にも見てもらうためのアイデアや、一般の人が参加しやすい環境づくりが必要だと思う。
- 等のご意見をいただきました。

出席者は、徳永豊委員長、なかはらかぜ、西岡雅宵、金子功一、畑八郎の各委員、社側から杉田昌士代表取締役社長、矢田民也専務取締役、ほか放送制作部員4名でした。